

ワークライフバランス

育児休業取得者からのメッセージ



平成 24 年度採用

総務部人事課

古堅 大喜



●家庭と仕事の両立がしやすい職場環境です

第三子の誕生にあわせ、育休を3ヶ月間取得しました。自分が家事や上の子の世話をすることで、妻が赤ちゃんの育児に専念できるようフォローしたいと考えたからです。

育休中は、家事や子供達の送迎など、時間に追われる毎日でした。しかし、子供の日々の成長を家族と共有でき、とても貴重な期間を過ごせたと感じています。

現在は、妻も1年半の育休から無事に職場復帰しました。忙しい毎日の中で、仕事と家庭を両立できているのは、育休を通して、家事や育児を夫婦で協力することの大切さを改めて認識できたからだと思います。

沖縄県は、子育てしながら働きやすい職場です。私が育休を申し出た際も、職場の上司や同僚は快く応じていただき、安心して育休を取得することができました。また、子が熱を出したときは、「子の看護休暇」を活用し、妻と交替で対応しています。

私がプライベートの充実を図りつつ、仕事に励むことができているのは、沖縄県の子育て支援制度と理解ある職場環境のおかげだと思っています。



平成 26 年度採用

土木建築部都市公園課

又吉 千秋



●制度を利用するための環境も整っています

八重山赴任中の平成28年と30年に娘2人を出産しました。産休・育休をまとめて2年7ヶ月間取得し、本庁へ異動と同時に復帰しました。

復帰後はフルタイムで働いており、お昼休みを15分短縮し、子どものお迎えに間に合うように勤務しています。主人も県職員であるため、子どもが体調を崩したときには、相互に協力して子の看護休暇を取得し対応しています。

子育て支援制度をフル活用できることはもちろんですが、周りにワーキングママ・パパの先輩猛者達が多くいるため、気兼ねなく相談できるところも魅力的な職場だと感じています。また、私の周囲でも共働きで家事育児の全てをフェアに分担している夫婦も増えてきており、そうした情勢の変化も職場の雰囲気や向上する後押しになっているのではないかと思います。

これまで自分のペースで行っていた当たり前のことが、育休期間を経て全て覆されたこともあり、時間配分・優先順位の付け方やセルフケアなど日々鍛錬を重ねながら仕事、家事、育児全てに取り組んでいます。